

天理大学ふるさと会海外研修報告書

イギリス人の「訛り」に対する認識と地域差の比較研究

ーリヴァプールとロンドンにおける現地調査を中心にー

国際学部 外国語学科 英米語専攻 4年 森井晶美



1. はじめに

この度はふるさと会海外研修生として選出していただき、とても貴重な経験をさせていただいて本当にありがとうございました。ずっと憧れであったイギリスに約2週間滞在し、現地の人々の温かさに触れ、調査を終えて無事に帰国することができました。私は4年間英米語専攻に所属していながら、英語を使って話すことに自信がなく、なるべく人と英語で会話することを避けてきました。しかしこの研修を終えて、英語で人と話すことの楽しさ、自分の英語が相手に伝わった時の嬉しさを身をもって感じ、「英語」という言語がさらに好きになりました。私の研修や準備に関わってくださった先生方、ロンドンにて約1週間宿泊をさせていただいた旭志ロンドン布教所の竹内さんご夫妻をはじめ、イギリスで調査に協力してくださった現地の方々、応援してくれた友達、そして温かく見守ってくれた家族。すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私は2024年9月2日から18日までの間、イギリスのリヴァプールとロンドンという2つの都市にて現地の方々を対象に街頭アンケート調査を行わせていただきました。本報告書にて、調査の結果を報告させていただきます。

2. 研修目的

この研修の目的は、イングランド北部の町リヴァプールと首都であるロンドンを訪れ、リヴァプールの訛りである「スカウス」(Scouse)とイギリスの標準発音である「RP」(Received Pronunciation)を比較し、2つの英語にはどのような違いがあるのか、また現地で暮らしている人々が「訛り」に対してどのような認識を持っているのかを現地調査することでした。この2つの都市を選んだ理由は、2つあります。1つは、スカウスの発音がイングランドの標準発音であるRP(Received Pronunciation・容認発音、以下RPと略)と大きく異なるからです。主にRPが話される、イギリスの首都・ロンドンは比較的南部に位置し、リヴァプールは北部に位置しています。そのため、話す言葉の発音や語彙が大きく異なるため、2つの地域で調査をしたいと考えました。2つ目は、リヴァプールが私の好きなアーティストであるビートルズの故郷だからです。彼らが話す英語は、初めはリヴァプールのスカウスアクセントでしたが、時間が経ち人気が上昇するとともにRPやアメリカ英語のような発音に変化していきました。また、ビートルズの活動と同時期である1964年公開の映画“My Fair Lady”ではその時代の「訛り」というものへの人々のイメージが顕著に表れています。“My Fair Lady”はイングランドの労働者階級の訛りとして知られる、コックニー訛りである少女イライザと音声学者ヒギンズの物語ですが、映画内では労働者階級を卑下するようなセリフが多く見られます。これらのことから私は、ビートルズが活動していた1960年代は「訛り」というもののイメージはあまり良いものではなく、ビートルズは世界中で多くの人に受け入れてもらうためには、英語の発音も標準的なものに変えるべきと考え、発音を矯正したのではないかと予想しました。また、この変化

にはイギリスに古くからある階級制度・意識にも関わっているのではないかと考えたため、現地の人々に対し訛りや階級についてのアンケート調査を行いました。

3. アンケート調査について

アンケートの内容は、以下の通りです。

〈基本情報〉

性別、年代、職業、出身地

〈リヴァプールとロンドン出身の方に対する質問〉

- (1) 「英語の訛り」というものにどのような印象を持っていますか？訛りについてどう思いますか？
- (2) RP (Received Pronunciation) に対してどのような印象を持っていますか？ ※リヴァプール出身の方へ
Scouse に対してどのような印象を持っていますか？ ※ロンドン出身の方へ
- (3) あなたは話す相手や状況によって話し方を変えますか？
- (4) あなたは自分のアクセントに誇りを持っていますか？
- (5) イギリスの階級制度についてどう思いますか？
- (6) 日常生活の中で階級の違いを経験したことはありますか？
- (7) 一番好きなビートルズの曲を教えてください。
- (8) (7) の曲が好きな理由を教えてください。
- (9) ビートルズが人気になっていくつれ、彼らのアクセントがスカウサクセントから標準英語に変わっていったことを知っていましたか？



現地でのアンケート調査の様子（リヴァプール）

4. 調査結果

調査では、当初はそれぞれの都市で 50 名以上のサンプルを収集することを目的としていましたが、ロンドンもリヴァプールも、観光客や移民など様々な文化を持った人々が集まっており、その土地で生まれ育った方を見つけることがなかなか難しい状況でした。そのため 50 名ずつの回答を得ることはできませんでしたが、リヴァプールで 27 人、ロンドンで 29 人の方に協力していただくことができました。調査結果は以下の通りです。

〈リヴァプール〉

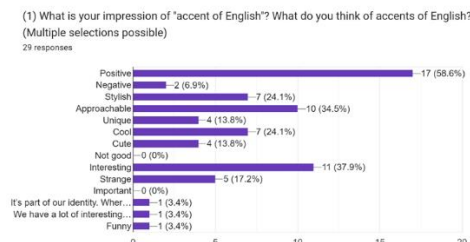
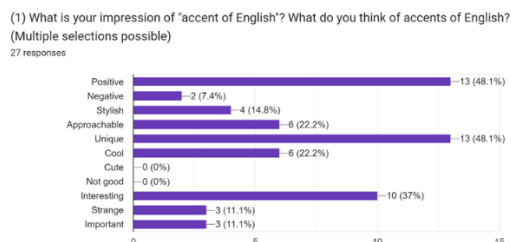
- ・性別：男性→17 人 女性→10 人
- ・年齢：10 代→2 人 20 代→14 人 30 代→3 人 40 代→2 人 50 代→1 人
その他→5 人

〈ロンドン〉

- ・性別：男性→16 人 女性→12 人 その他→1 人
- ・年齢：10 代→4 人 20 代→15 人 30 代→5 人 40 代→1 人 50 代→1 人
その他→3 人

※職業は多種多様なので省かせていただきます。

(1)「英語の訛り」というものにどのような印象を持っていますか？訛りについてどう思っていますか？



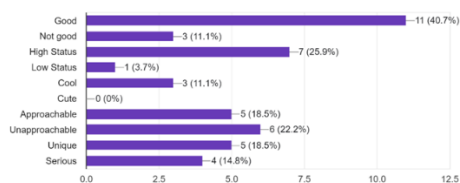
リヴァプールとロンドンの人々の「英語の訛り」に対する印象

(1) ではそれぞれの地域の住民に対し「英語の訛り」というものに対してどのようなイメージを抱くかを尋ねました。どちらの地域でもネガティブな印象を持っている人もいましたが、前向きなイメージを持っているという回答が多く、多くの人は「訛り」というものに対してプラスな印象を抱いているということが分かりました。

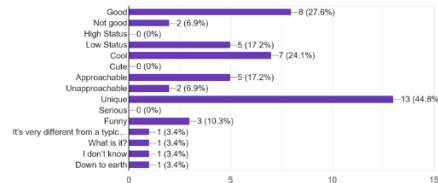
(2) RP (Received Pronunciation) に対してどのような印象を持っていますか？ ※リヴァプール出身の方へ

Scouse に対してどのような印象を持っていますか？ ※ロンドン出身の方へ

(2) What impression do you have of RP (Received Pronunciation)? (Multiple selections possible)
27 responses



(2) What impression do you have of Scouse accent? (Multiple selections possible)
29 responses



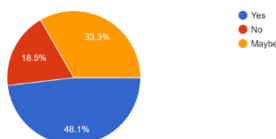
リヴァプールの人々の RP に対する印象とロンドンの人々のスカウスに対する印象

(2) ではリヴァプールとロンドンという2つの都市で、お互いの地域の英語の訛りに対する印象を尋ねました。イギリスには階級制度があるため、労働者階級の訛りとして知られるスカウスは、ロンドンではあまり前向きでない印象を持った人が多いのではないかと予想をしていました。しかし左の図のように、意外にも Unique という意見が一番多く、その次に Good や Cool のようなポジティブな意見が多く集まりました。それに加え、low status という階級に言及した回答もあり、マイナスなイメージはないものの下級の階級の訛りであるという印象はあるようでした。

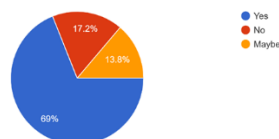
一方で、リヴァプールの人々から見た RP の印象は、右の図を見ると Good と答えた人がとても多かったが、それと同時に High status と階級についての回答が多く、その次に Unapproachable であると言う人も多かった。RP は主に王室や学者たちのような上流の階級の人々によって使われてきた英語のアクセントなので、それによって「近寄りがたい」と感じる人も多いようでした。私は RP のような標準発音の方が人々にとって馴染みやすく、一般的に「良い」発音だと思われるのではないかと予想していましたが、イギリスの現地の人々はスカウスの訛りの方が楽しい気分になるような、近寄りやすい雰囲気であるという意見がありました。

(3) あなたは話す相手や状況によって話し方を変えますか？

(3) Do you change your way of speaking depending on the person you are talking to or the situation?
27 responses



(3) Do you change your way of speaking depending on the person you are talking to or the situation?
29 responses



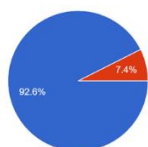
リヴァプールとロンドンの人々が状況や場所にに応じて話し方を変えるかどうか

(3) では、場所や状況によって話し方を変えるか、という内容を尋ねました。どちらの地域でも多くの人が場所や状況によって話し方を変える、おそらく変えていると回答しました。英語の訛りを持つ多くの人々は、フォーマルな場面ではより標準英語寄りの発音

をするようでした。この質問は、次の（４）にも大きく関係してくると思います。

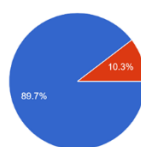
（４）あなたは自分のアクセントに誇りを持っていますか？

(4) Are you proud of your accent?
27 responses



● Yes
● No

(4) Are you proud of your accent?
29 responses



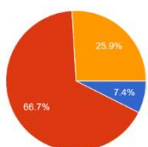
● Yes
● No

リヴァプールとロンドンの人々が自分の訛りに誇りを持っているかどうか

（４）では、自分の訛りに誇りを持っているかどうかを尋ねました。リヴァプールでは 92.6%、ロンドンでは 89.7%の人々が自分のアクセントに誇りを持っている、と回答しました。質問③で半数以上の人々が Yes または Maybe と答えたリヴァプールの人々は、27 人中 26 人というほぼ全員が自分のアクセントに対し誇りを持っていることが分かりました。一方で質問③でほとんどの人が Yes と答えたロンドンの人々も 29 人中 25 人が誇りを持っていることが分かりました。質問②で、「訛りは一種のアイデンティティだ」という回答がありました。日本でも訛りを自分のアイデンティティだと捉える人も多いと思うため、自分の「訛り」に誇りを持つ人が多いのではないか、と考察しました。

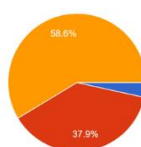
（５）イギリスの階級制度についてどう思いますか？

(5) What do you think of the class system of UK?
27 responses



● Necessary
● Not necessary
● Neutral

(5) What do you think of the class system of UK?
29 responses

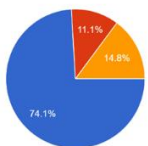


● Necessary
● Not necessary
● Neutral

リヴァプールとロンドンの人々のイギリスの階級制度についての考え方

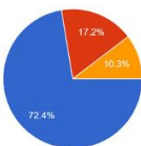
（６）生活の中で階級の違いを経験したことはありますか？

(6) Have you ever experience class differences in your daily life?
27 responses



● Yes
● No
● Neutral

(6) Have you ever experience class differences in your daily life?
29 responses



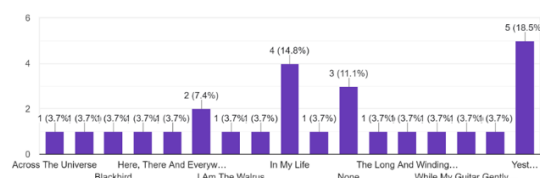
● Yes
● No
● Neutral

リヴァプールとロンドンの人々が日常生活の中で階級制度を感じたことがあるかどうか

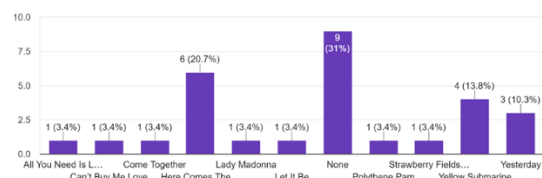
(5) ではイギリスの階級制度について尋ねました。階級制度については大きく意見が分かれていました。リヴァプールでは Not necessary という意見が一番多く、ロンドンでは Neutral の次に Not necessary が多いという結果になりました。この結果は次の (6) の普段の生活の中で階級の違いを感じたことがあるかどうかというところに関わってくると思いますが、(6) のグラフを見ると、階級について必要ないと答えた人が多いリヴァプールと、どちらともいえないという人が半数以上を占めたロンドンではほとんど同じ結果になりました。

(7) 一番好きなビートルズの曲を教えてください。

(1) Please tell me one of your most favourite songs in the Beatles.
27 responses



(1) Please tell me one of your most favourite songs in the Beatles.
29 responses

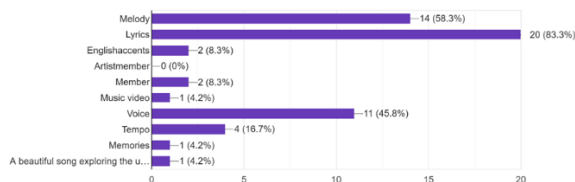


リヴァプールとロンドンの人々のビートルズの好きな楽曲

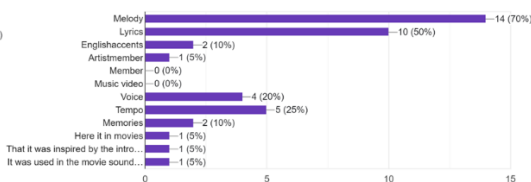
(7) では好きなビートルズの楽曲について尋ねました。ビートルズの活動時期は大きく初期 (1962~1964 年)、中期 (1965~1966 年)、後期 (1967~1970 年) に分けられます。それをふまえ、好きな楽曲を尋ねることによって、訛っていた時期と標準英語を話していた時期のビートルズの楽曲では差が出てくるのではないかと予想しました。リヴァプールでは 1965 年 (中期) 発表の Yesterday、ロンドンでは 1969 年 (後期) 発表の Here Comes The Sun が一番多くランクインしました。

(8) (7) の曲が好きな理由を教えてください。

(2) Please tell me the reasons you like that song. (Multiple selections possible)
24 responses



(2) Please tell me the reasons you like that song. (Multiple selections possible)
20 responses

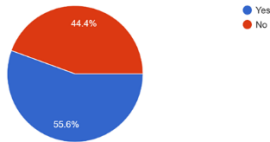


リヴァプールとロンドンの人々が (7) の楽曲を好きな理由

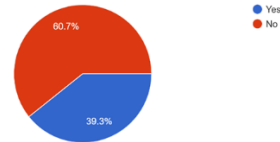
(8) ではなぜその歌が好きなのかを尋ねました。どちらの都市でも多くの人々がメロディや歌詞を理由に挙げていました。またその次に、声やテンポが好きという人も多くみられました。

(9) ビートルズが人気になっていくつれ、彼らのアクセントがスカウスアクセントから標準英語に変わっていったことを知っていましたか？

(3) Did you notice that all of the members of The Beatles changed their accents (Liverpool accent) to Standard British English accent as they became more popular?
27 responses



(3) Did you notice that all of the members of The Beatles changed their accents (Liverpool accent) to Standard British English accent as they became more popular?
28 responses



リヴァプールとロンドンの人々が、ビートルズがヒットするにつれて訛りのある発音から標準発音に変えていったことを知っていたかどうか

(9) ではビートルズがヒットするにつれて訛りのある発音から標準発音に変えていったことを知っていたか、ということについて尋ねました。リヴァプールでは半数以上が Yes と回答しましたが、ロンドンでは No と回答した人の方が半数以上を占めました。また、現地の人にインタビューをした際、メンバーの全員が標準発音で話していたわけではなく、一部のメンバー（主にリンゴ・スターやジョージ・ハリスン）は活動後期でも典型的なスカウス訛りだった、と話す方もおられました。

以上の結果を受けて感じたことは、イギリス人の英語の訛りに対するイメージはビートルズが活躍した 1960 年代から現在にかけてどんどん変わってきており、今の時代では訛りにポジティブなイメージを持っている人が多いことが分かりました。時代が移り変わっていくとともに、人々の色々なものに対する印象も変わっていくのだということがわかりました。また、私が当初予想していた結果とは異なることが多くあり、現地で調査をすることができて本当に良かったということを強く感じました。日本でももちろん、知りたいことがあればインターネットや文献で調べることができます。しかしそれには限界があり、実際に現地の人々と会って話を聞くことでしか得られない情報もたくさんありました。本当に貴重な経験をさせていただいたことが、とてもありがたかったです。

5. おわりに

改めて、この度はふるさと会研修制度で現地調査を行わせていただき、本当にありがとうございました。イギリスで滞在させていただいた約 2 週間はとても充実したもので、リヴァプールやロンドンの街中でアンケート調査を行うことができたという経験は、自分にとってとても大きな進歩でした。研修中は楽しいことばかりではなく、自分の英語力の低さから現地の方と上手くコミュニケーションが取れなかったり、何時間と声をかけ続けても調査に協力してくれる人が見つからなかったりと、何度も心が折れそうになる場面もありましたが、それを乗り越えたおかげで心も強く成長できたと思います。

また本研修の調査結果は、私の卒業論文にも大きく関わっている内容なので、調査に協力してくださった方々のご厚意を無駄にしないよう、結果をしっかりと分析し、最大限活用させていただきたいと思います。ふるさと会研修で得たことは調査結果だけに限らず、自分の成長に大切なものばかりでした。この経験を生かし、これからも様々なことに自分から挑戦しながら日々成長していきたいです。この研修は、たくさんの方々のご支援がなければ行うことができませんでした。繰り返しになってしまいますが、関わってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ロンドンの有名なデパート・ハロッズとロンドンバス



ビートルズが下積み時代にライブをしていたキャバーン・クラブ



旭志ロンドン布教所の皆さんとの写真